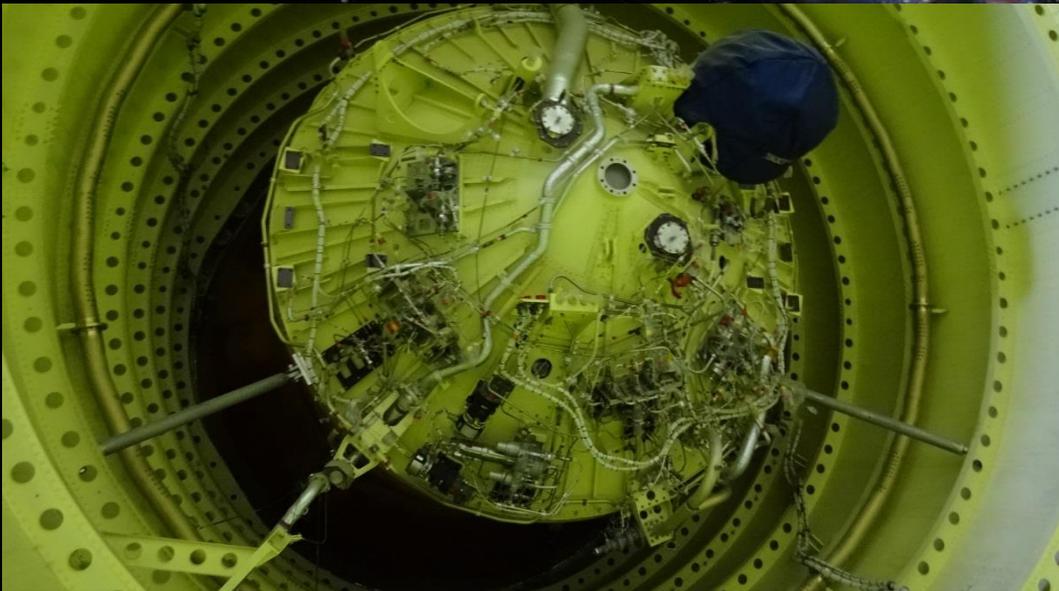
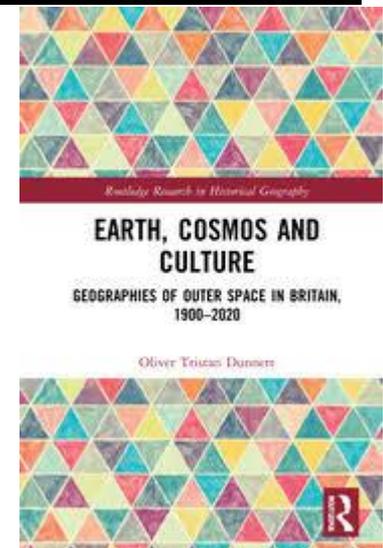
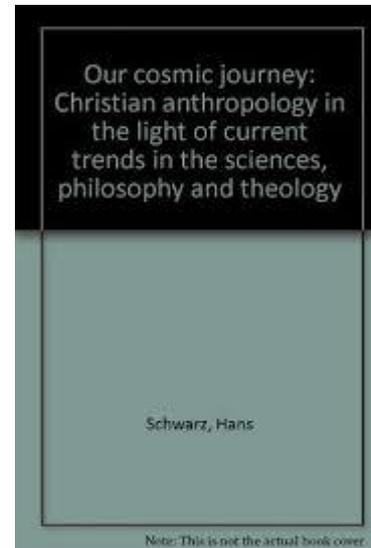
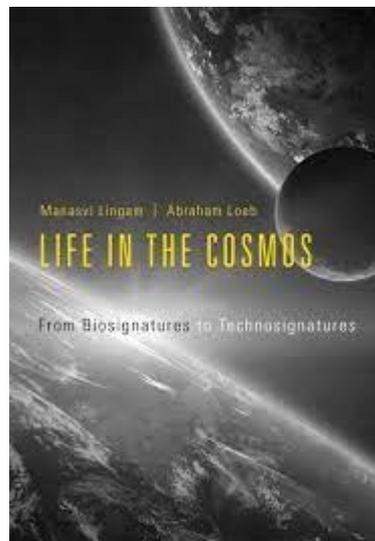
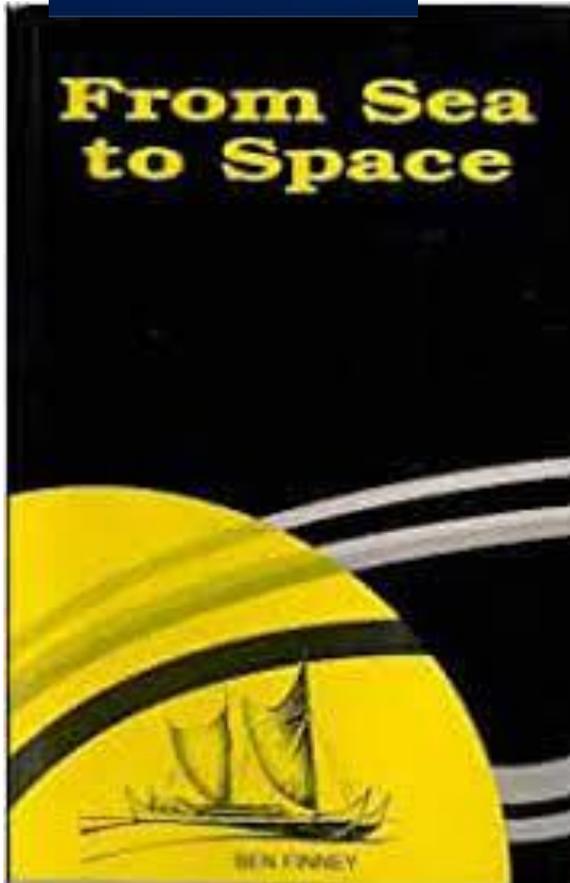
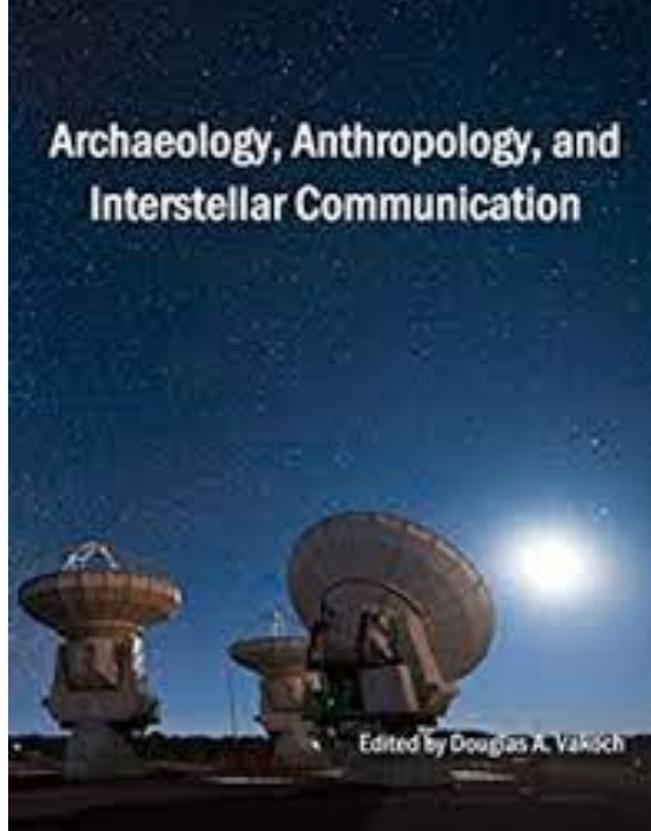
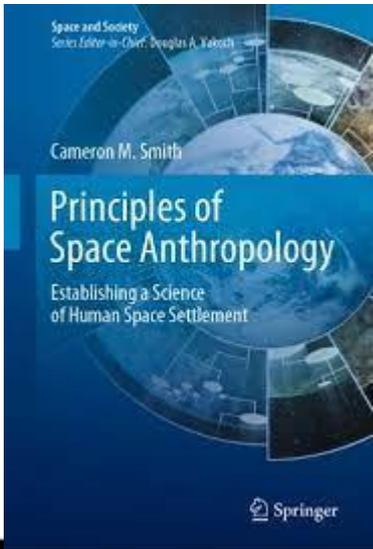


月惑星に社会を作るための勉強会
リファレンスモデル検討
人文科学(文化人類学)検討ワーキンググループ

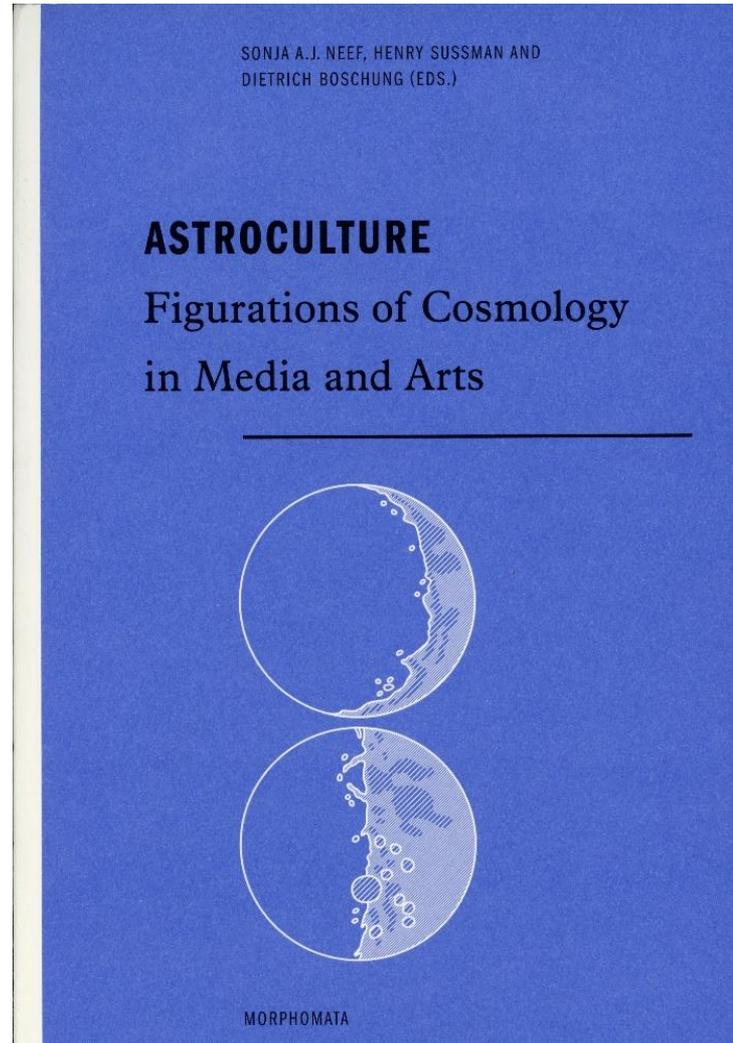
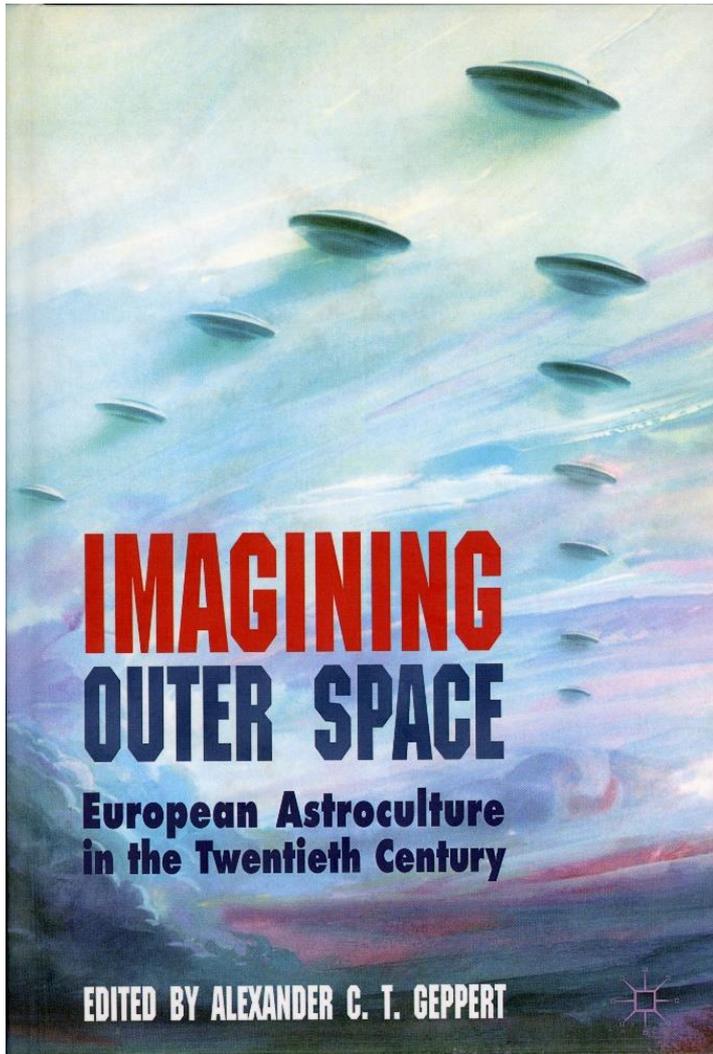


はじめに

06/24/10



宇宙文化 (astro-culture) 研究



アレント 人間の条件

「近代の入り口には三つの大きな出来事が並んでおり、それが近代の正確を決定している。すなわち、第一にアメリカの発見とそれに続く地球全体の探検、第二に宗教改革、第三に、望遠鏡の発明と地球の自然を宇宙の観点から考える新しい科学の発展」

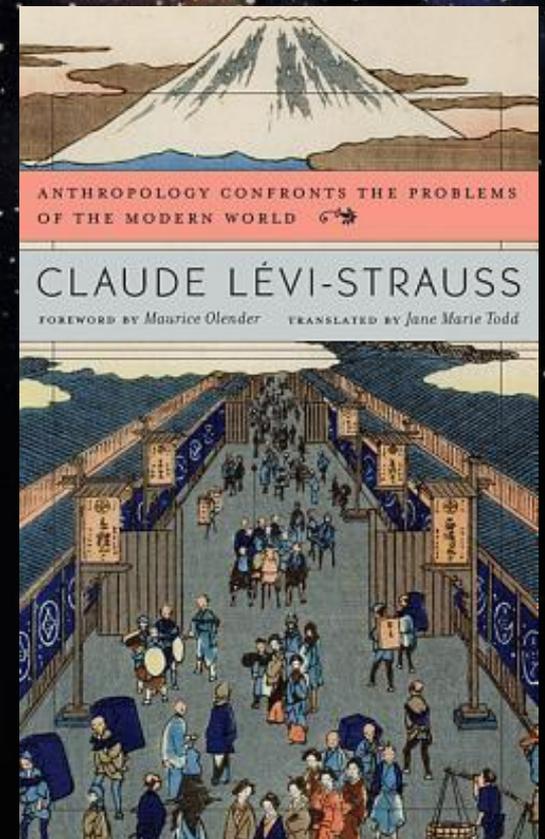
「地球に縛り付けられている人間がようやく地球から脱出する第一歩」というこの発言が陳腐だからといって、それがどんなに以上なものかを見逃してはならない」

(ハンナ・アレント 人間の条件)



<http://www.natsume-books.com/natsumeblog/wp-content/uploads/2013/06/Hannah-Arendt.jpg>

- That remoteness (to the exotic societies) reduces our perception to a few essential outlines. I would say that, in the social and human sciences as a whole, the anthropologist occupies a place comparable to that falling to the astronomer in the physical and natural sciences... the distance of the heavenly bodies allowed for a simplified view of them (Lévi-Strauss 2013, pp18-19)



レヴィ=ストロース講義 平凡社

未来学：宇宙と人類の多様性、技術と社会・文化の緊張関係

- 創造に満ちた偉大な時代とは、遠く離れたパートナーと刺激を与え合える程度に情報交換ができ、しかもその頻度と速度は、集団・個人間に不可欠の壁を小さくしすぎて交換が容易になり、画一化が進み多様性が見失われない程度に留まっていた時代



レヴィ=ストロース講義

今西錦司『民族文化などは、人間が意識的につくりあげようとしてできたものではなくて、自然にそうなってきたものでしょう。こういう文化と、サピエンスとして人間が意識的に努力して作り出した文化とは、はっきり分ける必要がある』



梅棹忠夫『目的発想は自然的所与とちごうてかなり自由度が高い。洋々たる可能性をはらんでいるとともに、一面大変恐ろしいところがある』

磯部洋明氏(京都市立大学)の示唆による

シビアナ人類(学)的課題。

(成人version)人類専用ノアの方舟

ノアの方舟がもし人類専用であったなら、

そして100名しか乗せられないとしたら、

どのような人間・民族・文化的背景・・・、を乗せる???

消滅してもよい文化・社会・言語は誰が決めるのか

cf.「もしも世界が100人の村であったなら・・・」

→現代世界の構造、矛盾、論争点が顕在化

現在の地球が直面している問題(globalization)

→SDG's、人新世

帰納的(経験的)アプローチ
／演繹的アプローチか

- 現状の技術の限定／ありうべき技術、社会、文化
- 帰納的アプローチは現実的であるが、状況対応的であり、時として技術のインボリューション(退化)とガラパゴス化を招く
- 革新的な技術的イノベーションや社会・文化の大規模な変化は、演繹的アプローチが出発点となる。

リファレンスモデル検討報告書構成 (2022年10月14日version)

- 1. はじめに
- 人文科学（文化人類学）からMoonvillageを考えることの意味
- 現代にいたる人間社会・文化の展開の過程だけでなく、現世人類「Homo sapiens」史（さらにはヒト科の歴史において、どのような意味を持つのか）
- ここでの「文化」とは、いわゆる芸術などの「High culture」ではなく、言語・非言語コミュニケーション、生活習慣、無意識の身体動作、価値観、行動規範など、人間を他の生物と分かち、社会を形成・存続するための、環境に対する独特の適応形式

宇宙開発、進出のアナロジーと文化

• 宇宙開発、進出のアナロジーと文化

• 大航海時代／グレート ジャーニー

• 「**CULTURE**」:大文字の文化(人類に共通の文化、文明civilization)と、
「**culture**」:小文字の文化(環境に応じ、歴史的過程の中で形成されるlocalな文化)

• →**CULTURE**から派生する**culture**:はるかに速度が速く、広範囲な変化をもたらす適応形式(R.ドーキンズ)であり、意図的に環境を不可逆的に急激に改変する力。

Cf. 他の動物の環境適応

2022年ノーベル医学生理学賞



- ▶ 日本国際賞の授賞式に出席したスバンテ・ペーボ氏。コロナ禍で2020～22年の3年分の受賞者が集まった=4月13日、東京都千代田区（AFP時事）
- ▶ 日本国際賞の授賞式に出席したスバンテ・ペーボ氏。コロナ禍で2020～22年の3年分の受賞者が集まった=4月13日、東京都千代田区（AFP時事）
- ▶ スウェーデンのカロリンスカ研究所は3日、2022年のノーベル医学生理学賞をドイツ・マックスプランク研究所のスバンテ・ペーボ博士（67）に授与すると発表した。ペーボ氏は絶滅したネアンデルタール人の細胞核のDNAを解読したほか、近縁の「デニソワ人」を発見した。
- ▶ スウェーデン人のペーボ氏は、発掘された骨などの形骸からの研究が主だった古人類学にDNA解析の手法を導入し、ネアンデルタール人のDNA解読に成功。現生人類（ホモ・サピエンス）と比較した結果、ネアンデルタール人が現生人類とも数万年間共存し、交雑していたことなどを明らかにした。
- ▶ また、08年にロシア南部アルタイ山脈の「デニソワ洞穴」で見つかった3万～5万年前の小指の骨のDNAを解析し、10年にはこの人骨がネアンデルタール人と近縁だが異なると突き止め、デニソワ人と名付けた。
- ▶ カロリンスカ研究所は授賞理由の説明で、「ペーボ氏の画期的な発見は、人類を人類たらしめている遺伝的特徴について理解を深める基礎を提供した」とたたえた。
- ▶ ペーボ氏は16年に慶応医学賞、20年に日本国際賞を受賞。同年から沖縄科学技術大学院大（沖縄県恩納村）の客員教授を務めている。
- ▶ ノーベル賞授賞式は12月10日、ストックホルムで開かれ、賞金1000万スウェーデンクローナ（約1億3000万円）が贈られる。（C）時事通信社

2. 検討課題

- 2. 検討課題

- 月面上にコミュニティを作る場合、どのような文化が共有されるのか:

- 地上との連続性(地上の再現)

- 月面上にコミュニティを作る場合、どのような文化が新たに生み出されるのか(地上の文化基盤):地上との不連続性

- 地上との文化の連続性がなく独自のフレームを生成

3. 前提の条件

- 3. 前提の条件
- 月面上に、1000名の「村」を建設する。
- →居住環境だけでなく、いかなるcommunity（社会）を設計し、そこでの「文化」を構想するか。
- →文化人類学における1000名のコミュニティの事例：
- 狩猟採集民：ネイティブ・カナダ、アイヌ、縄文人

4. 月面コミュニティを「創造」する際の2つの視点：大きな分岐点

- 本日の主な問題

5. 月面コミュニティの展開

二種類のタイプのコミュニティと時間的プロセス

- 短期
- 中期
- 長期

6. 検討すべき諸課題

- 6-1：生活空間としての完結性の設定をどこまで想定するか
(c f. 現代社会)
- 6-2
- 生活空間のモデル（どのようなライフスタイルをめざすか：価値観、生活のイメージ）

7. おわりに

- 7-1 帰納的（経験的）アプローチ／演繹的アプローチか
- 7-2 「設計主義」か「ゆらぎ」か
- 7-3 根本にある人間観の再検討

ホモサピエンス（考える人）

から

ホモモビリティスへ（動く人） community単位での移動）

ホモファーベル（作る人）

ホモルーデンス（遊ぶ人）

→すべて「文化」の問題

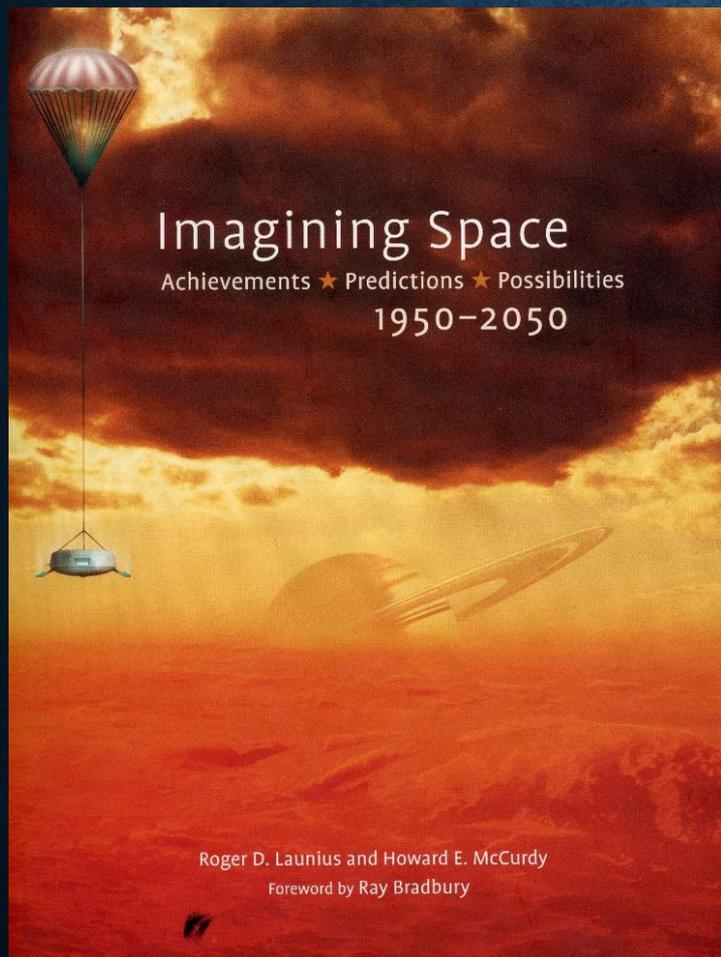
今後のversionアップ

*文化人類学の生活・物質文化の専門家、多様な人間の生活文化の活用。自然人類学、霊長類学を含む、人文社会系各分野（SFも含む）、科学技術社会論の各専門家の知識による肉付け

4. 月面コミュニティを「創造」する際の2つの視点:大きな分岐点

- 本日の主な問題

宇宙画や宇宙のイメージの文化史



月世界旅行史



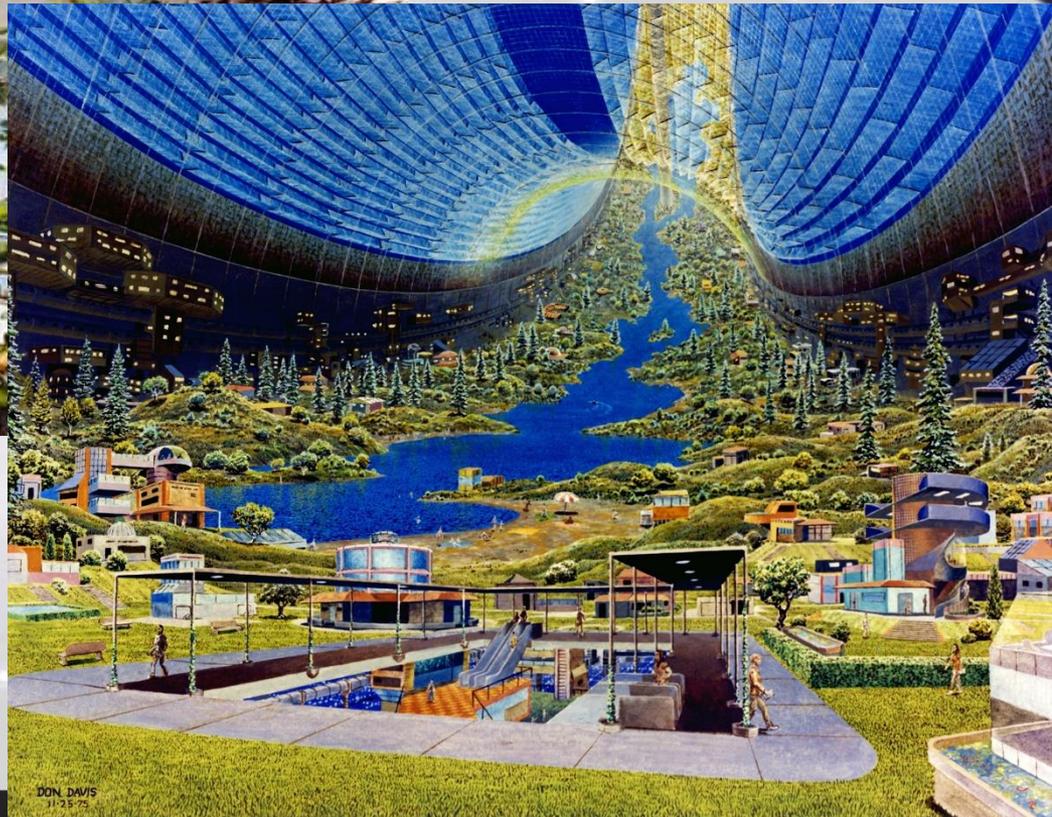
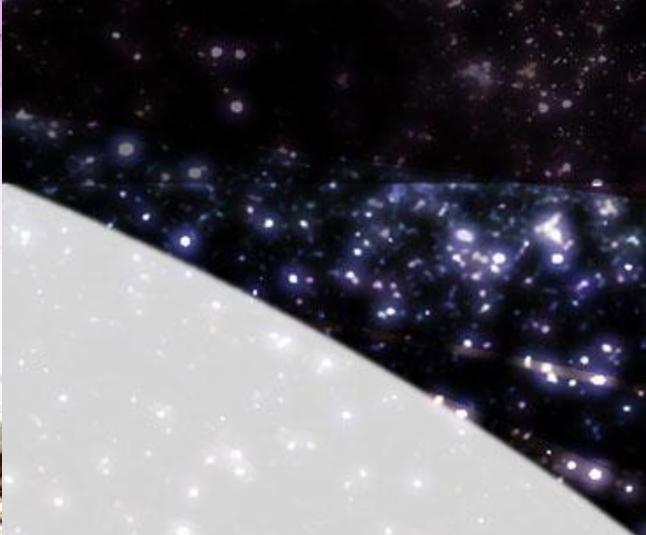
《月旅行の冒険》



《月旅行の冒険》



《月旅行の冒険》



DON DAVIS
11-25-75

5. 月面コミュニティの展開 二種類のタイプのコミュニティと時間的プロセス

- 5-1二種類のタイプのコミュニティと時間的プロセス
- コミュニティ単位での社会・文化適応、発展を想定
- 短期:
- 地上との連続性、地上の下位(地方)としての月面コミュニティ
- 地上の機能的(目的的)組織・システムの再現
- Human machine interfaceの組み込み
- 月面の環境操作

5. 月面コミュニティの展開 二種類のタイプのコミュニティと時間的プロセス

- 中期：構造化（システム化）
- 月面コミュニティにおける独自社会・文化形態
- 地上の多様な社会・文化の適用（人類学的知）

→開拓、移民の歴史

5. 月面コミュニティの展開 二種類のタイプのコミュニティと時間的プロセス

- 長期: 形質人類学(自然人類学)的变化
 - 環境に適応した身体的変化と多様性の発生
 - AI, ロボット、疑似ヒューマン、human-machine complex
- Cf. メタバース、アバター
- 多様性を組み込んだ社会・文化への改編
 - 人類進化 (Neo Homo sapiens)
- * 短期・中期・長期でどれくらいのタイムスパンが想定されるか
 - (検討・議論) * ただし、これらの変容が地上より速度が速い?

今日のSF ポストヒューマンの宇宙

(ダイソン・フリーマン『宇宙をかき乱すべきか ダイソン自伝』(ちくま学芸文庫)

・キム・スタンリー・ロビンソン『レッド・マーズ』(創元SF文庫)、

・小川一水『第六大陸』(ハヤカワ文庫J)

・アンソロジー『ワイオミング生まれの宇宙飛行士 宇宙開発SF傑作選』(ハヤカワ文庫SF)

・スティーヴン・バクスター『タイム・シップ』(ハヤカワ文庫SF)

・グレッグ・イーガン『ディアスポラ』(ハヤカワ文庫)

・ポール・アンダースン『タウ・ゼロ』(創元SF文庫)

・ブルース・スターリング『スキズマトリックス』(ハヤカワ文庫SF)

・ウィリアム・ギブスン『ニューロマンサー』(ハヤカワ文庫SF)

・グレッグ・ベア『ブラッド・ミュージック』(ハヤカワ文庫SF)

ジョン・ヴァーライ「八世界」連作(『残像』『へびつかい座ホットライン』(ハヤカワ文庫SF)

ジョン・スコステープルドン『オッド・ジョン』(ハヤカワ文庫SF)など。

環境に対する文化の適応が困難になった時、身体変容を伴った生物学的変化の可能性(サイボーグ化、DND操作などを含む)?

→df. 新生殖補助医療技術

2. 月面コミュニティを宇宙進出全体の中で位置づける

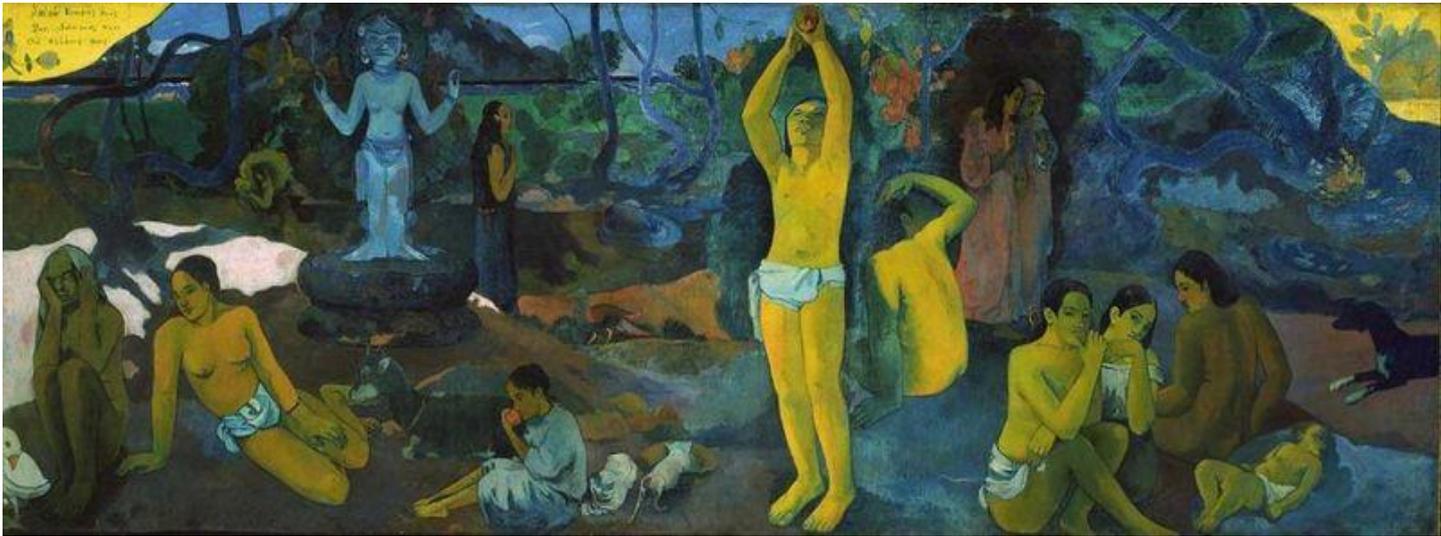
- 発展Processと最終目標
- 1. (単一の機能的・職能group)小グループ: 観光、資源開発、研究開発
- 2. 複数の小グループの併存(サポート、生活空間化)
- 3. 分化したsectionを備えた複雑なcommunity(世代・家族)の形成
- village(1, 000名) 生活世界の形成
- * 1000名規模は、地上での中規模の村レベル

2. 月面コミュニティを宇宙進出全体の中で位置づける

- 発展Processと最終目標
- 4. Town(10, 000名)
- 火星や小惑星、アステロイド開発の基地化、ターミナル化
- 5. City level(100,000名)
- 地球から太陽系開発のHUB化
- (環境の安定性から、やがては火星にHUBが移動?)

宇宙を知ることの意味

D'où venons-nous? Que sommes-nous? Où allons-nous?



現代の宇宙探査の目的 (Global Exploration Strategy, 2007)

“Where did we come from?

What is our place in the universe?

What is our destiny?”